レッスン：SPA67

テーマ：様々なサイクル

SPA67/KE2001/3RD

私の姉妹・兄弟たちよ、スピリット、光、火の子供達よ。私たちは絶対としての主、主の聖性のなかに抱かれています。

過去に素質的可能性のサイクルについて多くを述べてきました。実際、諸宇宙のなかにはたくさんの不動の法則があります；創造界それ自体もそれらの法則によってコントロールされています。しかしまた、創造界にあるもの全ては、その現れとヒポスタシス（（＊その状態）に従って、様々な不動の法則によってコントロールされています。

それらのレッスンで述べたように、生…人間のイデアにおける生、そしてまた聖霊的イデアにおける生…には現れの諸世界において、それ自体の素質的可能性のサイクルがあります。

説明したように現在のパーソナリティーにはそれ自身の素質的可能性のサイクルがあり、それは人間のイデアが制限ある現れのなかに入るのを助けたのと同じ素質的可能性のサイクルです。そして同じ素質的可能性のサイクルは今、現在のパーソナリティーがそれらの制限から抜け出て再びその本質を現すように助けています。素質的可能性のサイクル、法則について説明してきました。また、誰であれ調和に反する者、それらの法則の調和を保つステートに反する者は何らかの能力を発揮するかもしれないが、しかしその結果として苦しむことになると述べました。それら全てについて述べてきました。

将来は勿論、それら全てについて更に詳しく述べるつもりです。特に、様々な素質的可能性のサイクルにおける様々な助けについて。さて、私たちは実際、蓋然的可能性を使うことはありません。なぜならそれは無知なパーソナリティーに対するものだからです。そして説明したように、素質的可能性のサイクルおよび蓋然的可能性のサイクルがあります。人間は無知のステートにいる間は無数の蓋然的可能性のサイクルを経験します。私たちは最終的にはそれらのサイクルを創造することを止める必要があります。しかし、いつそれが可能となるでしょうか？現在のパーソナリティーが生の特質を完全に表現するようになる時初めてそれが可能となります；言い換えれば、現在のパーソナリティーが自己実現に到達する時です。

さて、自己実現のステートにいる自己実現した現在のパーソナリティーはコミュニケーションするために同調という能力を使用するのでしょうか？つまり、五感あるいは５つの超感覚というコミュニケーションの手段を使わずに同調を使うのでしょうか？

他の同胞の人間と通信するとき、自己実現した現在のパーソナリティーはそのステートに留まるのでしょうか？答えはノーです。

五感を使用している人間と通信するときには、どのようにして通信するのでしょうか？

その人は現れのバイブレーションを低下させます；他の人間達が使用している通信方法を使い始めることによってコミュニケーションし、他の人間によって受け入れられることによって、自己実現した現在のパーソナリティーは他の人々を助けることができるのです。

しかし、そうすることによって自己実現した現在のパーソナリティーも蓋然的可能性のサイクルを経ることになるのです。繰り返しますが、蓋然的可能性のサイクルを経験するようになり、そして原因・結果の法則の下に置かれるのです。もしそうでなければ、いかにして他の人々の苦しみを軽減したり、あるいは他の人々の苦しみを背負うことができるでしょうか？

無知のステート、言い換えれば幼児的段階にある人間を助けることができる唯一のステートは、原因・結果の法則の下に身を置くことなのです。他の方法はありません。

人間のイデアの苦しみを背負うことができる唯一の者とは生の海、つまり主、汎宇宙的キリスト・ロゴスです。勿論、前に述べたように、イエスキリスト・ロゴスは天上人であり、また創造それ自体のフォームです；それは最大から最小までの創造界のセルです。このフォームは存在するすべてのもののフォームです。もしこのフォーム、イエスキリスト・ロゴス、あるいは汎宇宙的ロゴスによって与えられたこのフォームがなければ、現れの全てのステートには他のいかなるフォームも存在しないでしょう。

 Page2

過去に述べたように、汎宇宙的キリストロゴスは天なる父と異なるものではありません。彼は息子であると言うとき、その理由は絶対存在はそれ自身のなかで現れのステートにいるからです。

生命の木においては、絶対存在は一番上の大きな三角形によって示されます。そして、ここに（＊その三角形の）底辺の線がありますが、その三角形を下向きにすると下向きの三角形ができます。それは全く同じ三角形です。そして覚えているかもしれませんが、その下向きの三角形は汎宇宙的キリストロゴスであると述べました（＊実際には、キキスが図を前にして生徒達に説明しているものと思われます）。

さて人間のイデアのフォームについては、それはまた創造界それ自体のフォームです。それはどこからスタートするのでしょうか？それは下向きの三角形のポイントからスタートし、イエスキリスト・ロゴスとしての天上人が生じます。さて、この三角形のポイントはその三角形それ自体とは異なるのでしょうか？同じです。しかし、今やそのポイントからフォームが表現され、神の黙想のなかで活動しているもの全てを導きます；なぜなら、前に述べたように創造界それ自身は神の黙想の活動のなかにあり、神の黙想を経ており、何であれ創造界のなかにあるものは生であり、実際にそれは活動しているのです。なぜなら全ては生だからです。存在するもの、活性化され存在するもので、生でないものはありません。そこには生はないと時に私たちが見なすもの、そこにも生があり、私たちは間違っています。生はあらゆるものの中にあり、物質の原子のなかにさえあります；なぜなら、原子が存在するのは、そのなかにある生の結果だからです。そのなかには活動、振動、バイブレーションがあります；その結果として物質である原子が存在するのです。

ですから、覚えているかもしれませんが、イエスキリスト・ロゴスはこれらの三角形（＊複数）の真ん中にあります。（＊恐らく、生命の木の中央にある六芒星のこと）下向きの三角形は創造界への彼の降下を意味し、もう一つの上向きの三角形は生としてのその本質に到達したそのパーソナリティーを示しています。そして、六芒星が形成されます。それはそのパーソナリティーがキリスト意識に到達したことを意味します。

過去に、意識についてたくさん述べてきました。セミナーでも意識とは実際には何であるかについて通しで話したことがあります。意識とは生であり、生とは意識です。現在のパーソナリティーが制限ある現れの中に入ったと言う時、それはその意識が制限ある現れの中に入ったことを意味します。そしてそれらの領域における様々な意識のステートについて述べました。

さて、前のレッスンで述べたように、自己実現した現在のパーソナリティーはキリスト意識に到達しますが、それは現在のパーソナリティーが生それ自体の諸世界に入ることを意味しません。生それ自体の世界に入るということは、存在の諸世界と実存の諸世界の境界で生じます。自己実現した現在のパーソナリティーは下の三角形に留まりますが、今や不可視のヘルパーとして引き続き転生のサイクルに入ります。

現在のパーソナリティーの素質的可能性の大きなサイクルがあり、その大きなサイクルのなかには前に述べたように、５つの小さなサイクルがあります。しかし、また他の小さなサイクルについても述べてきました。あるいは生の現象におけるステーション　　　　　ということもできますが、それらはイエスキリスト・ロゴス、つまり生それ自体によって与えられたものです。

それらの小さなサイクルをも私は素質的可能性のサイクルと呼びますが、完全な意味でのサイクルではありません。完全なサイクルをイニシエーションと見なされる他の５つのサイクルと比較することができます。私たちにそれら２つのステートを取り扱い、比較するチャンスが与えられることを願いましょう。生それ自体から直接に、あるいは創造界の様々な法則を通じて現在のパーソナリティーに提供される素質的可能性について。生それ自体から直接に、そうです、ステーションとしてのそれらの小さなサイクルは生それ自体から直接に人間に与えられます。それらは全ての人のなかにあります。なぜなら全ての人間を活性化し、生かすスパークは実際に主の海から来るからです。それは全ての人の内側に存在する主なのです。

Page3

ですから、14の小さなサイクルは私達の内側にあり、生が人間のイデアを通じてまさに初めて創造界へと下降した時から私達の内側にあり、直接に人間に与えられたものです。他のイデアについてはどうでしょうか？そうです、それらのサイクルは全てのイデアのなかにありますが、しかし他のイデアは実際には何も提供しません。それらは全てイデア、元型のステートのなかでイデアとしてあるだけです。

ですから、５つの小さなサイクルがあり、５つの異なったイニシエーションがあり、14の他のステーションがあります。そのステーションは実際に人間が経る必要があるものです。そしてそれら14のステーションは14芒星として示され、それは創造界におけるイエスキリスト・ロゴスの誕生と現れを意味します。それはベツレヘムの星です。

私たちはまた５つの小さな素質的可能性のサイクルを、現在のパーソナリティーのそれぞれのイニシエーションと呼ぶことができます。言い換えれば、現在のパーソナリティーが一つのサイクルをマスターする時です…それはつまり、現在のパーソナリティーがその人の真の本質を前よりもいくらか多く現していることを意味します；それ以前よりも少しだけ多く。そしてその同じパーソナリティーが次のサイクルを再びマスターすると、再びその現在のパーソナリティーは前よりもさらにもっと生の特質から自らを現すことになります。そのように続きます。最終的に現在のパーソナリティーは現在のパーソナリティーの素質的可能性の大きなサイクルから与えられ、つまり特定され許された生の特質を完全に現すようになるまで。そこにはそれら全ての小さなサイクルも含まれます。

イニシエーション。各イニシエーションのために儀式を行うスクール（＊グループ）があります。ある生徒は１年または2年間学びます。そして２年または3年後にイニシエーションが与えられます。毎日の生活における彼らの言動にかかわらず与えられます；なぜなら彼らはとても多くのクラスに参加したが故に与えられます。単に出席したからといって、イニシエーションが現在のパーソナリティーに与えられると思いますか？答えはノーです。

儀式は本当に必要なのでしょうか？ノーです。イニシエーションは何年参加したかではなく、一生懸命にワークした結果として与えられるものです。ですから、私たちは素質的可能性の様々なサイクルをマスターするためにワークする必要があります。サイコノエティカルな上昇は贈り物として与えられるのではありません。それは忍耐、ハードワーク、そしてスパークとしてのあなたの内なる自己とコミュニケートすることができる結果として表現されるものです。なぜならそれは、それができるステートに到達したときに、その生のスパークから来るものだからです。現在のパーソナリティーの素質的可能性の大きなサイクルをマスターすることに成功するのは、そのスパークから来るからです。

さて、部屋のなかでやるべきワークはたくさんあります。なぜなら、前に述べたようにこのワークは非常に重要であり、適切な方法で行うべきであり、部屋の壁に穴を開けるべきではありません。なぜなら、もしそうすると現在の現れの結果を経験するのみならず、時のなかで様々な現れのレベルにおいて人間が創造してきた結果に出会い、それらを経験することになってしまうからです。私が結果という時、それは悪い経験をするということです。悪い経験とは、人類の悪い経験の結果として生じたエレメンタルを意味します。それらのエレメンタルと直面する準備ができている時にそれらを見るのなら問題はありませんが；もし準備ができていない場合は、それはとても悪いことです。部屋を出るのは素質的可能性の２番目のサイクルをマスターした時であるべきです。その時には自動的にあなたは部屋の外に出て、あなたをそこに留めるものはもはや何もありません。ですから、この地で囲まれている部屋でたくさんのワークをする必要があります。

話したように、私たちは地のエレメントを非難するわけではありません。非難されるべきは地のエレメントではなく、私たちの無知です。地のエレメントは私達に可能性を与えてくれます、能力と言うこともできますが。しかし、地のエレメントは非難すべきものではありません。なぜなら、全てのなかには生があり、そして私たちが真の本質を完全には表現しないステートに入るに関しては、そこには背後に聖なる目的があるからです。聖なる神の計画、神の意志を非難する私たちとは一体誰なのでしょうか？

Ｑ：自己実現に到達したパーソナリティーは人々を助け、他人の苦しみを背負うということですが、もしそのパーソナリティーが超意識のステートで働くのなら、原因・結果の法則による結果をもたらす苦しみをそのようなパーソナリティーはいかにして背負うのでしょうか？

Page4

K：現れの結果、あるレベルにおける現れの結果；私たちは通常その結果をどこで受けるのでしょうか？現れのステートが何であれ、肉体で結果を経験します。肉体の様々な病気があります。関係性、例えば夫婦関係、家族関係、友達との関係、国との関係など、関係性の結果として経験が生じます。

ですから、そのパーソナリティーでさえもそれらの結果を経験するでしょう、他の人と同じような程度ではないかもしれませんが。私が程度と言うとき、フィーリング、気持ちが異なることでしょう。なぜなら、サイコノエティカル体の形が完全に再形成されているからです。

ですから、そのパーソナリティーは他の人々と同じような感情を現すでしょうか？他人はそのパーソナリティーの現れを他の人々と同じだと解釈するかもしれませんが、実際には同じではありません。人々から受け入れられるために、人々と同じであると見られるために、一時的には同じような現れを示すかもしれませんが、実際には異なります。なぜなら、もしコミュニケーションのために五感を使用するとするなら、それはまたその現れもそれと似たようなものであることを意味します；そうすることによって、そのパーソナリティーの諸体は再形成されているにもかかわらず、一時的には五感を使った特定の現れのレベルを示す形を取るのです。

あるレベルの現れに到達した探究者は、寝ている間に使われる（＊他人を助けるために）と前に話しましたね。一時的に、例えば数秒間、ヘルパーとして使われるのです。すると、もしそれが数秒間ならどれだけ助けることができるだろうか、と疑問を抱くかもしれません。

時間としての瞬間、瞬間、この世界、バイブレーションにおいて私たちは時間をそのように捉えますが、一秒間でとても多くのことがそこには含まれるのです。ヘルパーとは何でしょうか？あなたが助けを与えることができるように、それらのバイブレーションへと案内します。その間、瞬間的にあなたのサイコノエティカルな不定形の体が完全に再形成されるのです。それと同じようなことが起こるのです。しかし、（＊自己実現した現在のパーソナリティーが）再び不定形になるわけではありませんが。コミュニケーションのレベルに従って、５つの超感覚、あるいは五感を使う時、自己実現した現在のパーソナリティーは同じようなフォームを取り、サイコノエティカル体もその目的のためにそのような形をとります。さもないと、バイブレーションを下げた時に、完全に再形成された諸体でコミュニケーションをすることはできないからです。

ですから、そのように行われるのです。ですから、コミュニケーションしている現在のパーソナリティーは原因・結果の法則だけでなく、様々な素質的可能性のサイクルをも経験するのです。

Ｑ：（＊睡眠中に一時的に助けている時）その人はそれに気づいているのですか？

Ｋ：実際にはそれに気づきません。人生は続きます。あなたは自分の現れのレベルにより気づきやすくなります。アップ・ダウンする現れのレベルに。現在のパーソナリティーとして無意識的ではなく意識的に生き始めるようになります。

現在のパーソナリティーが３番目の素質的可能性のサイクルに入った時、現在のパーソナリティーが地上に立つ大きな四面ピラミッドのなかに入る時初めて、経験に基づく知識が始まる、と前に述べました。そしてそれらのシンボルは人間ではなく、創造界の様々な法則によって与えられているものです。

Ｑ：素質的可能性のサイクルは、現れとその人の状態に相似して形成される、というようなことを述べましたが、それは各人にとってユニークであるということでしょうか？

Ｋ：違います。素質的可能性のサイクルは誰にとっても同じです。諸宇宙において誰にとっても、素質的可能性のサイクルは同じです。しかし、蓋然的可能性のサイクルは、各人の現れに従って異なってきます。私たちは自分自身の現れに従って、無数の蓋然的可能性のサイクルを経ています…素質的可能性のサイクルが与えられたことを有益に使用するか否かにかかわらず。各人は自分の現れ、自分という個人性、個別性の結果として蓋然的可能性のサイクルを経ています。それらの経験は現在のパーソナリティーに対して何をするのでしょうか？それらは個別性を与えます。そして実際、個別性は異なった蓋然的可能性のサイクルの結果なのです。全ては関連しています。もし私たち全員が同じ蓋然的可能性のサイクルを経験するなら、なぜここに存在する必要があるでしょうか？もしそうなら再び大きなゼロとなります。全ての人が同じ個性、個別性を帯びてしまします。それについて考えてみてください。

Page5

Ｑ：Via de la Rosa（＊エルサレムからキリストが処刑されたカルバリの丘まで、キリストが通ったと信じられている道。苦しみに満ちた道、プロセスの意味）でフランシスコ会の僧が中世に確立した14のステーションがあります。教会に着くまでの興味深い道として、彼らが作りだしたものです。

Ｋ：しかし、（＊私が話している）各ステーションは誰かの想像によって生み出されたものではありません。それは生それ自体のスパークとして生じたものです。それが誰かを通じて表現されたか否かは関係ありません。転生のサイクルにおけるステートにおいて、生から現在のパーソナリティーに与えられるものは何であれ、生から直接に与えられたものです。それは人間が経なければならない素質的可能性のサイクル、あるいはステーションによって与えられるものではありません。

素質的可能性のサイクルにおいては、あなたは何であれ他の人々が経た多くのことを避けることができます。他の人々の経験を使用することによって、絶えず進化・成長のプロセスを加速することができます。

素質的可能性のサイクルは蓋然的可能性のサイクルと関連します。関連すると言う時、それはその中にあるという意味です。大きなサイクル、小さなサイクルがあります。そして素質的可能性の小さなサイクルのなかには現在のパーソナリティーが創り出した無数の蓋然的可能性のサイクルがあります。

それらの素質的可能性のサイクルによってステーションとして決められていることを変えることができるでしょうか？それは生それ自体によって現在のパーソナリティーに与えられたものです。それは辿るべきルート、道なのです。

Ｑ：もし後になってやって来る現在のパーソナリティーの進歩・成長が加速されるなら、それはいかにして個人のレベルを成し遂げる能力に影響を与えるのでしょうか？

Ｋ：諸体の形の再形成がずっと速くなります。他の人々が経たのと同じ経験を経る必要はありません。（＊進歩の速度は）絶えず加速されています。なぜなら他の人々が、進化・成長への大通りへと導かれる通り道を開いてくれたからです。なぜなら、あるレベルから上になると信念だけがあります。キリスト教徒、イスラム教徒、ヒンズ教徒、ユダヤ教徒その他何であろうとも、全ての人々にとってただ一つの大通りだけが存在するのです。

Ｑ：地球という惑星を管理支配しているのは誰なのですか？

Ｋ：常に惑星ロゴスが惑星を管理支配しています。ロゴスというと直ちにロゴス的現れが心に浮かんできますが、それらは全て、人間のイデアを通じた現れなのです。自動的にそこから、地球と地球上の全人類との直接的つながりが生じます。地球の構造、あるいは地球のすべての原子、分子、細胞の中に存在できる地球にとって、無数のアークエンジェルが存在しています。しかし、アークエンジェルたちが行うそれらの仕事を支配しているのは誰でしょうか？それは惑星ロゴスです。

Ｑ：それではそれはキリスト・ロゴスとどのように異なるのですか？

Ｋ：キリスト・ロゴスは生の海であり、それは一つの実体です。それが自己実現した魂のセルフ・エピグノシスであるかどうか、私たちにはわかりません。勿論、「指示」は上から直接に来ます…人間のアプローチを越えたところから。

自己実現した現在のパーソナリティーは惑星と同調することができます。その意味は惑星ロゴスとの同調ということです。しかし、その同調はある程度の「コミュニケーション」までです；そして惑星ロゴスは直接なので、私たちはその存在のステートのリアリティーのより深いところに入ることはできません。そして前にレッスンで述べたように、大司教は実際にその能力、惑星ロゴスに同調する能力に到達しているべきなのです。

さて、その結果として地球をマスターし、惑星の上には十字架があります。その意味は現在のパーソナリティーが自己実現に到達した、そしてキリスト意識に到達したことを意味します。なぜなら、もしあなたがそこに到達しなければ、あなたは地球を、惑星をマスターできないからです。その時初めて、あなたは自らの意識を広げ、地球を抱きしめることができるのです。

Page6

Ｑ：もしいろいろな自然現象が全て私たち人間の行動、あるいは現れの結果であるなら、私たちの目的とはバランスを再確立することでしょうか？

Ｋ：そのとおりです。

Ｑ：人間は進化・成長して惑星ロゴスになるのでしょうか？

Ｋ：誰もわかりません。しかし、惑星ロゴスになるにはそれらの経験が現された人間の経験との非常に近い関係が必要です。私にはわかりませんが、それはドミニオンか何かだと思いますが、わかりません。それに同調することができますが、何か特別なフォームがあるわけではありません；それは意識であり、それは存在のそのステートに与えられるものではありません。あなたが惑星ロゴスに同調すると、惑星ロゴスは地球の全ての原子、分子、細胞から放射されます。それは全体としての地球それ自体とは違って、特定のフォームがあるわけではありません。イエスキリスト・ロゴスについて話す時には、惑星ロゴスあるいは太陽系のロゴスについて話す時よりもずっと近くなっています。そうです、太陽系を管理指揮している「誰か」もいます。それは実際に太陽を管理支配しているということです。なぜなら、太陽系における生(Life)の源は太陽だからです。いづれにしても、これは将来のテーマであり、待ちましょう。

**SPA67/エクササイズ１**

静かに目を閉じて座り、あなたの心を騒がせるもの全てを解き放ちます…あなたは純白に包まれていて、自分の形の境界を感じており、自分が今この部屋で座っているのを完全に気づいています…完全に気づいており、あなたはこの部屋にいます…ゆっくりと徐々にこの部屋がホワイトピンクの光で包まれるのが見えます、全てはその光で包まれ、あなた自身もその光で包まれています…自らを開いて、この光の影響を受け入れます…胸の付近、ハートに暖かなものを感じますが、それは主のアガピに包まれていること以外の何ものでもありません…徐々に主のアガピで満たされていきます、それがあなたの中に注がれているのを感じます…主がアガピであなたを満たし、抱くがままにまかせます…

次にこの部屋が別の光で包まれるのを見ます、それは水色の光です、しかし主のアガピからの暖かさはまだあなたの中にあります、それをつかんで逃さないようにします…つまらないことで主のアガピからのその輝きを失うことのないようにします…

次に、あなた自身がとても輝いている純白の光の源であるのを見ます、しかし勿論その純白の光のなかには主のアガピがあります。あなたは純白の光の源であり、その光が絶えず強くなっていくのを見ます、そしてその光が強さを増すにつれて、椅子に座っているあなたがもはや重力の法則によって縛られないのを感じます…自分の意識が上に上がっていくのを感じます…あなたはこの明るい光の源であり、光です…あなたはまさに光そのものです、重力の法則から切り離され、非常に速い速度で上方に昇っていきます、ほとんど光の速度で…そうです、あなたはその動きを感じませんが、どのようにして自分が浮いているポイントに達したのかと考えます、なぜならあなたはまさにこの瞬間浮いているからです…そして最後には椅子に戻ってきます。

私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

EREVNA SPA67/KE2000/1